

再評価結果（令和5年度事業継続箇所）

担当課：道路整備課
担当課長名：杉本 孝誠

事業名	主要地方道 <small>なるとこうえん とさどまりうら みつしし</small> 鳴門公園線 土佐泊浦～三ツ石工区	事業区分	主要地方道	事業主体	徳島県
起終点	自：徳島県 <small>とくしま なると</small> 鳴門市 <small>なると</small> 鳴門町 <small>なると</small> 土佐泊浦 <small>とさどまりうら</small> 至：徳島県 <small>とくしま なると</small> 鳴門市 <small>なると</small> 鳴門町 <small>なると</small> 三ツ石 <small>みつしし</small>			延長	1.6km

事業概要
主要地方道鳴門公園線は、国道11号から鳴門公園へ至る延長約9kmの道路である。当路線は従来から鳴門公園に向かう県内外の観光客に利用され、当工区整備による観光客の利便性向上及び地域の開発振興に寄与するほか、緊急輸送道路である神戸淡路鳴門自動車道鳴門北ICから国道11号に直接接続することで緊急輸送道路ネットワークの強化を図ることを目的とし、バイパス方式による整備を行うものである。

平成16年度事業化	-	平成18年度用地着手	平成20年度工事着手
全体事業費	48 億円	事業進捗率	22.7 %
計画交通量	9,700台/日	供用済延長	0 km

費用対効果分析結果	B/C	総費用	総便益	基準年
	事業全体 1.8 (1.9)※1 残事業 3.0 (3.2)※1	(残事業) / (事業全体) 26.0億円/42.2億円 事業費：25.5億円/41.7億円 維持管理費：0.4億円/0.4億円	(残事業) / (事業全体) 81.7億円/81.7億円 走行時間短縮便益：72.4億円/72.4億円 走行経費減少便益：3.2億円/3.2億円 交通事故減少便益：2.0億円/2.0億円 環境負荷低減便益：3.0億円/3.0億円 救急救命率向上便益：1.1億円/1.1億円	令和5年度

感度分析の結果	【事業全体】 交通量：B/C=1.66～2.02 (交通量±10%) 事業費：B/C=1.72～1.94 (事業費±10%) 事業期間：B/C=1.68～2.01 (事業期間±2年)	【残事業】 交通量：B/C=2.69～3.29 (交通量±10%) 事業費：B/C=2.72～3.31 (事業費±10%) 事業期間：B/C=2.73～3.27 (事業期間±2年)
----------------	---	--

- 事業の効果等**
- 国土、地域ネットワークの構築：神戸淡路鳴門自動車道鳴門北ICから国道11号へのアクセス向上
 - 災害への備え：緊急輸送道路ネットワークの強化による地域防災力の向上
 - 周辺地域の効果：高速IC、国道及び周辺観光施設等の有機的連結による地域産業などの開発の促進

関係する地方公共団体等の意見
■ 鳴門市より、積極的に事業促進に協力するため、早期整備を求める要望がある。

前回再評価時より今回再評価実施までの周辺環境変化等
■ 平成31年3月：「高松自動車道 さぬき三木～鳴門IC」の4車線化が完成。

- 事業の進捗状況、残事業の内容等**
- 令和4年度までに、用地進捗率73.1%、事業進捗率22.7%となっている。
 - 残事業は、残用地の取得及びトンネル・橋梁を含むバイパス区間全域における道路構造物の整備。

事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等
■ 道路新設に伴う排水の流末処理について、地元調整に時間を要したが、令和4年2月に、関係者の理解を得ることができた。今後については、工事を推進するとともに、残る用地取得を行い、令和12年度内の2車線暫定供用、令和17年度内の4車線完成供用を目指す。

- 施工の構造や工法の変更等**
- 2段階での暫定2車線供用を行うこととし、早期に事業効果の発現を図る。

対応方針：事業継続

- 対応方針の決定理由**
- 以上の事業の効果、進捗状況等を踏まえると、事業の必要性、重要性は高いと考えられる。



・総費用、総便益とその内訳は各年次の価格を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものである。
 ・総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳の合計と一致しないことがある。
 ※1 環境負荷低減便益(騒音・CO2・NOXの低減)、救急救命率向上便益を考慮した事業費及びB/C。